

2009.APRIL

あなたとFUJIを見つめるLIVE MAGAZINE

volume 29

Face to Face

[フェイス トウ フェイス]
笑顔でつなぐコミュニケーション

皆さん、輝く毎日をお過ごしですか？

創立55周年 吉原自動車学校
代表取締役
交通栄誉章緑十字金賞 受賞

高田 利江
Toshie Takada

お気に入り SHOP
新しい季節に心が躍ります

GOURMET
富士市には素敵なお店が
たくさんあります

花びぜん
お花の綺麗な季節になりました

Book information
春の風に吹かれて
読書をしてみませんか？

Smile3
郡司さんのご家族を紹介します

Happy present
写真家 小口 昭宣 15選
「光に彩られた富士山の風景」



朝日新聞 ご愛読の皆さまへ

拝啓 平素は朝日新聞をご愛読いただき、まことにありがとうございます。

さて、朝日新聞は明治12年(1879年)1月の創刊以来、本年1月には創刊130周年を迎えることができました。これもひとえにご愛読いただいている読者の皆さまの暖かいご支援のおかげと深く感謝申し上げる次第でございます。

これからも私どもは読者の皆さまの視線を大切にしたい報道と正確でいねいな配達をより一層心がけ、地域の方々に信頼と親しみを感じていただけるよう努力をまいります。

現在は、これからの時代の重要なテーマであり、皆さまの関心も深いと思われる「環境」「教育」「医療」に重点をおいてお伝えしています。

朝日新聞社、星野新聞堂ともに、これからも読者の皆さまのご期待に応えられるよう努力を続けてまいります。

末永いご支援のほどをよろしく願いいたします。

敬具

2009年春

朝日新聞社
星野新聞堂

歌を歌うことで
仕事も頑張ることができた

毎年秋が深まるころ、富士市ロゼシアターでは吉原自動車学校主催「交通事故撲滅シンポジウムとクラシックの夕べ」と題したリサイタルが開催されている。自動車学校の経営者である高田利江さんはシンポジウム歌手としても活動しており、このリサイタルに数多くのアーティストを招き共演している。あの『千の風になって』を大ヒットさせた秋川雅史さんに至っては、今年で第8回になるリサイタルに初回より毎年出演している。従って地元富士市の皆さんは秋川さんがNHKの紅白歌合戦に出場する以前からあの『千の風になって』を聞いて涙を流していたのだ。

今年で吉原自動車学校は創立55周年を迎える。昭和29年、まだ荒野だった現在の土地で高田さんと社員2人で自動車教習所としてスタートした。

「当時は免許を取るのに自動車学校と違ったものはなく、市役所に成人学校自動車課という課があり、そこで運転の仕方を覚えて静岡の試験所で試験を受けることが免許を取得する方法でした。自分自

身、合格したときの感動は今でも覚えています。思い返すとあの時の感動が自動車学校を設立しようと思ったキッカケでした。事業資金を姉が貸してくれ、私を後押し助けてくれました。決して楽な道ではなかったし、多くの人に迷惑をかけたと思います。が、長年付いて来てくれた社員や、私を支えてくれた方々のおかげで何とかここまでやってこれました。当社で働く社員は皆30年、40年と付いて来てくれた方々。社員だけは大切にしようと考えて経営してきましたがその結果、社員はお客様を大切にしてくれる。一人一人が努力してくれたお陰で今日があると思います。」

高田さんの人情味に溢れ豪快な性格は誰からも愛される。教習所にくる若い子達にも「はいはい」「どうも」といった調子で何の隔てもなく接する姿は、昔よくいた近所の『叱ってくれるおばさん』を思い出させる。

「子供の頃、算数で点数が悪く落ち込んでいたと、母が八百屋に行つて計算ができれば十分と言ってくれた。厳しい母だったが多くのことを教えてくれました。私は好きなことでは一番にならないと嫌な性格で、テニスと音楽だけは誰にも負けない



高田 利江 たかだとしえ
吉原自動車学校 代表取締役
交通栄誉章緑十字金賞 受賞



「秋川 雅史」氏と吉原自動車学校にて

旅案内 日本全国地図 1:350,000

抽選で 500名様 プレゼント

日本の絶景を訪ねる旅

明日への一頁につながつている。 130 朝日新聞

ご愛読ありがとうございます。

旅案内 日本全国地図 「日本の絶景を訪ねる旅」

朝日新聞の創刊130周年を記念して、「旅案内日本全国地図『日本の絶景を訪ねる旅』」を抽選で500名様にプレゼント致します。

住所、ご契約者名、電話番号をご記入の上ハガキかメール、またはFAXにてご応募ください。

ご応募資格

- ・現在、朝日新聞をご購読のお客様
- ・これから朝日新聞のご購読予定の方

当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

宛先 〒417-0049 富士市緑町1-28
宛名 星野新聞堂「旅案内」係まで
E-mail hoshino8@nifty.com
FAX (0545) 52-9757

自信がありました。テニスは顔が表と裏が分らなくなるくらい没頭しました。音楽は父がトラックとハイヤーの仕事をしていて、よく若い社員の余暇にレコードで軍歌を聞かせていました。その影響もあり軍歌も自然と好きになり、歌をよく歌いましたね。とにかく元気に明るく、辛い現実にも負けないように歌うことが私の音楽でした。」

そんな高田さんは趣味でシャンソンを歌い始めた。NHK文化センターのカルチャー講座受講をきっかけにシャンソンの世界に入り、その才能を石井好子先生(日本シャンソン協会設立者、会長)に認められ、徐々に大きな舞台で歌うようになっていった。色々な舞台で有名アーティストと共演したが、文頭に紹介した秋川雅史さんとの出会いは次のようなものだったと言う。

秋川雅史さんとの出会い

東京都千代田区内幸町ホールという小さなホールがある。十数年前、高田さんもこのホールの裾で出番を待っていた。その時に端の暗闇で一人発声練習をする青年を見つけた。「ちょっと私に発声の方法を教えてくださいませんか？」と声をかけたのが当時まだ無名だった秋川雅史さんだった。「話かけると大変なもので、親切に発声の方法を教えてくださいました。こんないい青年だったら応援してあげたいという気持ちになりました、がんばってねと握手をすると彼の手がガサガサだったので。聞けば音楽だけで生活することが出来なくて引越屋さんでアルバイトをしているのだと言う。それならば大型の免許を吉原自動車学校でとりなさいと薦め、彼が私の家に住み込みで免許をとりに来たのが交際のキッカケでした。」

それ以降、高田さんは秋川さんの活動を様々な面でバックアップして来た。どこかの会社のイベントがあれば直に声を掛け、知人の結婚式にも秋川さんを出演させた。とにかく何かあれば必ず秋川さん起用をお願いして廻った。そんな中、遂にチャンスが到来した。NHKの歌番組に出演する

機会を得たのだ。夢は膨らみ、高田さんは言った。「いつか紅白に出ることになったら、タキシードをプレゼントしてあげるわ。」そんな期待が現実のものとなった。「千の風になつて」が空前の大ヒットとなり、紅白に出演する機会を得たのだ。「おめでとうと電話をかけ、タキシードの話をしました。そして所属事務所でも既に採寸も済み、発注したと言う。売れると待遇も違うのかと思いましたが、詳しく聞いてみると後から自分の給料で支払うと言う。それならば約束もした事だし、ぜひ私にプレゼントさせてくださいと言いました。私の贈ったタキシードを着て紅白の舞台に立った時は本当に嬉しかったですね。」

ロゼシアターのリサイタルを見て来た多くのファンも同様に、スタンドカラーのタキシードで歌う秋川雅史を特別な感慨を持って見守っていたに違いない。

恒例になった「交通事故撲滅・シャンソンとクラシックの夕べ」も今年で第8回を迎えるが、元々は吉原自動車学校の社員の方が、地元での交通事故を一件でも減らしたいと願った企画したもの。現在では市や警察などと連携して立派な交通安全啓蒙活動として認知されている様で、今回の交通安全賞章緑十字金賞に繋がったものかも知れない。

最初はロゼシアターの小ホールで始めたが、遂に第3回目からは大ホールで開催。それでも満杯状態が続くチケット入手が難しい程だ。毎回地元では大きな反響を呼んでいるが決して秋川人気に頼ったものでなく、シャンソン歌手・高田利江のエンターティナーとしての実力は相当なものだ。また昨年度のリサイタルでは前座で高田さんが静岡駅の地下で出会った三味線を弾く青年を出演させるといった粋な計らいもあった。今年は11月13日に開催予定だが多彩な内容で次回も観客を魅了してくれることだろう。



吉原自動車学校主催

交通事故撲滅

『シャンソンとクラシックの夕べ』



Yoshihisa Matsumoto



Masafumi Akikawa



Toshie Takada



Muneyuki Sato



Yaeko Mizutani